

第7回高エネルギー春の学校

Thursday, 18 May 2017

Poster1兼懇親会 (19:30 - 21:00)

-Conveners: 山崎祐司 (神戸大学)

[id] title	presenter	board
[58] 17 宇宙線ミュオン検出の効率化	浅井 香奈江 (お茶の水女子大学 M1)	
[56] 15 Belle II実験における崩壊点検出器の構成	谷川輝 (東京大学 M1)	
[42] 02 国際リニアコライダーにおけるトップ対生成閾値領域でのトップクォークの研究	江田優人 (東北大学 M1)	
[43] 04 単一光子状態における二重スリット実験	佐藤帯子 (岡山大学 M1)	
[53] 12 LHC-ATLAS実験における重いクォークを含むハドロンの研究	関根達侑 (東京工業大学 M1)	
[46] 07 高エネルギー素粒子・原子核衝突における運動学的考察	西谷 理佐 (奈良女子大学 M1)	
[47] 05 宇宙線ミュオンによる岩手山透視に向けたシミュレーション研究	小西 達也 (首都大学東京 M1)	
[45] 01 LHC-ATLAS実験におけるタイルカロリメータを用いたDi-muon Triggerの開発	日比 宏明 (信州大学 M1)	
[41] 03 エアロジェルチェレンコフ検出器を用いた宇宙線ミュオンの運動量分布測定	千賀 智史 (名古屋大学 M1)	
[49] 08 チャームクォークを含んだバリオン状態がエキゾチックハドロンとの混合状態である可能性の検証	平田 光 (名古屋大学 M1)	
[59] 18 宇宙線ミュオンの電荷識別に用いる磁気回路の設計、製作とミュオンの電荷比の測定	伊藤 秀一 (名古屋大学 M1)	
[48] 06 MWPCの作成の試み	國吉宏一郎 (京都大学 M1)	
[54] 13 LaBr3(Ce)シンチレータを用いたガンマ線測定による229Th原子核の第二励起状態の寿命測定	鈴木健太 (岡山大学 M1)	
[51] 10 LHC-ATLAS実験におけるミュオン検出器でのフェイクヒットの影響	堀口 楠日 (神戸大学 M1)	
[52] 11 オルソポジトロニウムの寿命測定実験	宮崎 祐太 (九州大学 M1)	
[55] 14 火山の透視に用いる検出器の性能評価 ゲイン調整・ μ イベントの光量分布	橋本 奨平 (九州大学 M1)	
[57] 16 ATLAS実験Run-2におけるミュオントリガー性能	吉田登志輝 (神戸大学 M1)	
[50] 09 ミュオニック原子を用いたミュオン質量の検証	奥藤 陸矢 (名古屋大学 M1)	